

## 各審議会における委員からの主な意見と回答等

令和元年度第 2 回福島県農業振興審議会における委員からの主な意見と回答等 . . . 1 ページ

令和元年度第 2 回福島県森林審議会における委員からの主な意見と回答等 . . . 8 ページ

令和元年度福島県水産業振興審議会における委員からの主な意見と回答等 . . . 11 ページ

令和元年度第2回福島県農業振興審議会における委員からの主な意見と回答等

No.	審議会	委員氏名	分類	項目	意見等	説明、回答、方針など
1	農業	横田委員	質問	資料3 総点検	総点検は今回で終わりになるのか 残り2年の達成率とかは見ずして進めると いうことか	新しい計画を策定するにあたり、総点検としてまとめましたが、現行計画は令和2年度までの計画期間ですので、現行計画の進捗管理は引き続き実施してまいります。
2	農業	齋藤委員	質問	資料4 原子力災害からの 復興状況	営農再開した地域で「新たな品目への挑戦 も始まっている」と書いてあるが、どう いった品目に取り組んでいるのか	タマネギ（南相馬市、浪江町）、ネギ（南相馬市）、サツマイモ（楢葉町）、ブドウ（川内村）、花き（川俣町（アンズリウム）、トルコギキョウ（浪江町）、胡蝶蘭（葛尾村）、カスミソウ（飯舘村）などの栽培に取り組んでおります。
3	農業	関委員	質問	資料4 GAP	GAP取得件数は増えているが、取得に よって取引先が増えたとか、メリットを感じ ているのか アンケートを取られているが、結果はどう なのか	県が実施したアンケート結果を見ると、作業の効率化や生産性の向上など無駄のない農業経営に結びつくとともに、農作業における責任感や安全意識の向上に効果があり、さらにGAP経験年数が長い生産者においては売上額の増加や販路拡大など所得向上が図られております。 本調査の結果については、内容を整理した上で公表することとしております。
4	農業	生源寺会長	意見	資料5 計画の考え方	新たな総合計画に関連する情報の提供が必要	新しい計画の策定にあたっては、新たな総合計画の基本的な考え方や計画期間などと整合性を図りつつ、取り組んでいるところです。 今後の審議会においては、新たな総合計画の審議内容等の情報を提供してまいります。

5	農業	橋本委員	意見	資料5 計画の考え方	新計画の期間が10年間というは長すぎる 仮に10年にするとしても、5年の中間で 見直しを行う等を検討する必要	
6	農業	阿部委員 代理 遠藤氏	事後意見	資料5 計画の考え方	計画期間を「30年を見据え、10年後を 目指す」とあるが、高齢化の進む現状から 早期の対策を検討する必要	<p>新しい計画は、本県の農林水産業・農山漁村の振興に向けた長期的展望に立った施策の基本的方向を示す計画として、今後10年間の施策の方向性を定めていきたいと考えております。</p> <p>評価につきましては、毎年度、施策の進捗や課題を検討・評価し、進行管理を行うとともに、審議会への報告等を通して評価の客観性の向上に努めてまいります。</p> <p>一方で、激しく変化する農林水産業をとりまく情勢に適切に対応し、柔軟に施策を展開していくことも必要と考えておりますので、進行管理や審議会等からの意見を踏まえて、必要な見直しの有無について検討してまいります。</p>
7	農業	岩崎委員	意見	資料5 計画の考え方	計画が持つ、安定性と柔軟性という矛盾する 点をどう乗り越えていくか 見直しや評価の仕組みなど新しい取組につ いてもあわせて検討いく必要	
8	農業	生源寺会長	意見	資料5 計画の考え方	計画の規範性・安定性という面と柔軟性とい う面 見直しについて事務局から説明があつた が、しっかり議論が必要	
9	農業	横田委員	意見	資料5 計画の考え方	施策として柔軟性を持たせることは大事だ が、重点戦略がないということは、行き当 たりばったりになるのではないか	
10	農業	岩崎委員	意見	資料5 計画の考え方	福島県農林水産業振興計画の策定の過程 に、農林漁業者の生の声を反映させていく 必要 女性や若者など、さまざまな主体の声を できるだけ反映させていく必要	<p>令和2年7月より各方部において農林漁業者等との意見交換会の実施を予定しております。</p> <p>また、その他にも関係団体等と意見交換するなど、様々な立場の方々から意見を聴取して、新しい計画の策定過程に反映させてまいります。</p>

11	農業	石井委員	意見	資料5 計画の考え方	<p>現行計画の“自然環境と共生”が、新たな計画では見えない。 中長期的には、環境配慮とかSDGsなどの地球環境の問題に配慮したものが必要であり、自然環境との共生の取組を位置づける必要</p>	<p>農林水産業はその活動を自然資本や環境に立脚していることから、環境に配慮した持続可能な生産を今後とも推進していくは重要と認識しております。 新しい計画においても「環境と共生する農林水産業の推進」を施策に位置づけて推進してまいります。</p>
12	農業	後藤委員	意見	資料5 計画の構成	<p>産業別から施策ごとに分けるということだが、見づらくならないような、使いやすいような工夫が必要</p>	<p>多様化する地域課題に対応するため、施策を総合的に推進しているところです。 課題に対する農林水産業各分野の施策をまとめて表記するなど、読む人にとって分かりやすい計画となるよう、工夫してまいります。</p>
13	農業	橋本委員	意見	資料5 計画の構成	<p>生産振興の部分については、「水田農業」とか「園芸振興」など、品目別に方向性を立てる必要</p>	<p>生産振興に関する項目につきましては、土地利用型作物、園芸作物、畜産物、林産物、水産物と分けて、具体的な取組を記載してまいります。</p>
14	農業	生源寺会長	意見	資料5 計画の構成	<p>農林水産業振興計画はある意味すごい情報量 読む方、使う方にとっての計画のあり方について検討が必要</p>	
15	農業	横田委員	意見	資料5 計画の構成	<p>項目の文章が現行計画よりも長く感じる長くすればするほど、分かりにくいので、わかりやすいような端的な言葉する必要</p>	<p>政策分野毎に取り組んでいる施策を簡易な文章でコンパクトに記載するなど、農林漁業者や関係者等にとって、分かりやすい計画となるよう検討してまいります。</p>
16	農業	関委員	意見	資料5 計画の構成	<p>現行計画が長くて、どこがどう対応しているのか分からない、見にくい 例えば、将来の目指すべき姿に対して、施策の展開方向のどこにどう対応しているのかを分かりやすくすべき</p>	

17	農業	橋本委員	意見	資料5 複合災害からの復興	相双地区の営農再開の部分についても県民に見えるように示していく必要	市町村によって営農再開の進捗が大きく異なる状況であり、今後、市町村別の営農再開状況をホームページ等で情報発信してまいります。
18	農業	満田委員	意見	資料5 風評払拭	福島県産品の信頼回復への対策は優先順位が高い 風評払拭への対策が必要	御意見のとおり風評払拭への対策は重要であり、引き続き安全性の確保と周知を図りながら、トップセールスやオンラインストア、海外への輸出の強化を進めてまいります。 さらに、ふくしまならではのブランドを確立するため、GAP、水産エコラベル、有機JASの推進や、オリジナル品種の推進などを進めてまいります。
19	農業	橋本委員	意見	資料5 担い手の確保・育成	新規就農者210名超しているが、49歳未満がそのうちどれくらいか、併せて、その人たちがきちんと定着しているかどうかなど、その辺の分析を含めて、新規就農支援なり、あるいは定住の方向性を出していく必要	
20	農業	橋本委員	意見	資料5 担い手の確保・育成	担い手を育成する観点から、新規就労形態の実態を踏まえて整理していく必要	別添「別紙1」のとおり
21	農業	阿部委員 代理 遠藤氏	事後意見	資料5 担い手の確保・育成	新規就農者の収入が安定するまで、行政や近隣の農業法人で研修を兼ねパート代金で経営安定を支えるなど検討が必要	
22	農業	後藤委員	意見	資料5 中小規模農家の支援	認定農業者の育成確保、担い手への農地集積、経営感覚に優れたエリート農家の育成確保と併せまして、本県の事情を踏まえたうえで、新たな計画のなかに、中小規模農家が現状維持あるいは若干プラスαでできるような支援策を打ち出す必要	人・農地プランの推進により、土地利用型農業の作業効率化を図る担い手への農地集積・集約化を進めるとともに、高齢者や中小規模農家においても地域の中で役割を担い、地域の農家がいきいきと農業を続けられるよう地域農業の維持発展を目指した集落営農の取組を推進まいります。 また、水路管理や除草などの共同作業などへの支援を始

23	農業	代理 北原氏	意見	資料5 中小規模農家や高齢者への支援	高齢者や中小規模農家が希望を持てるような対策が必要	また、小規模農家や高齢者への対応は、今後の支援を始め、6次化商品を開発しオンラインショップでの販売など、高齢者や中小規模農家の所得向上につながる取組についても支援してまいります。
24	農業	満田委員	意見	資料5 農地集積	生産を委託される方がどんどん増えていて、お願いされる方は受けきれない状況どこにネックがあるのか。人なのか、モノなのか、技術なのか、お金なのか、動きのあるところの問題解決の糸口がある今後解決策を講じる必要	現在、人・農地プランや農地中間管理事業等の推進により、地域の担い手に農地の集積・集約を進めておりますが、いまだ目標とする集積率を達成しておらず、農作業の効率化の観点からも今後も引き続き取組を進めることが必要と考えております。 一方、集積によるほ場数の増加や面積の拡大により、ほ場条件に応じた適正管理を十分行うことが困難となり大規模化と生産性向上を両立することが課題となっております。このため、経営相談所の活用による経営改善指導を始め、法人の雇用受入体制への支援、スマート農業の導入を推進してまいります。
25	農業	阿部委員 代理 遠藤氏	事後意見	資料5 農地集積	農地集約化が進み効率的に農地管理が進んでおりますが、受け手の中規模農家や大規模農家の声として「集積の限界」が聞こえてくる。 後継者不足が深刻化している。解決策を早期に実施する必要	また、後継者不足や担い手の高齢化が深刻化していることから、新たな農業の担い手を確保・育成するため、就農者確保に向けた掘り起こしや技術研修等に取り組んでまいります。
26	農業	生源寺会長	意見	資料5 流通・販売	「食の外部化」 農産物あるいは水産物は、食品産業を経由して最終的に消費者のところに行く農林水産業から見ると川下の食品産業の部分についても、もう少し議論をする必要	「ふくしまプライド。」のキャッチフレーズのもと、オールふくしまによる取組により、県産農林水産物の品目毎に実需者や消費者のニーズに合わせた販売促進を図っているところです。
27	農業	中村委員	意見	資料5 流通・販売	食の外部化が進んでいる その対応を、販売経路とかを十分把握して、新しい計画に組み入れる必要	また、農林水産業振興計画の関連プランである「第3期ふくしま地域産業6次化戦略（令和2年3月）」の策定に当たっては、流通事業者のバイヤー等から幅広く意見を聴取し、「食の外部化への対応」や「マーケットインの視点による商品開発」などの課題を把握・整理し、対応方針を盛り込んだところです。
28	農業	生源寺会長	意見	資料5 流通・販売	マーケットオリエンテッドについては今の計画では、その部分はほとんど触れられていない印象がある。新しい計画では、具体的な方針が必要	次期対策においても、多様化する消費・販売ニーズに対応するため、マーケットインの視点をさらに重要視し、流通、小売、飲食業など幅広い実需者との連携を強化しながら販売促進を図ってまいります。

29	農業	満田委員	意見	資料5 流通・販売	これからの10年というのは、御説明あったように、マーケットオリエンテッドの考え方でやっていく必要
30	農業	横田委員	意見	資料5 生産振興	<p>福島の顔になる「ふくしまの恵みイレブン」の品目の売上げの推移はどうなっているのか 生産量が増えているのか、売上げが増えたり減ったりしているのか、と評価したうえで、生産者を増やしていくなど、次の施策を考えていく必要</p> <p>「本県農林水産業をめぐる情勢」でお示ししているとおり、「ふくしまの恵みイレブン」の主な品目の出荷量は、総じて減少傾向にあります。「ふくしまの恵みイレブン」を始め各品目の生産量と販売単価を乗じて算出される農業産出額は、風評の影響もあり、直近の平成30年で2,113億円で、東日本大震災前の平成22年(2,330億円)より減少しており、平成32年の目標値に到達しておりません。 「ふくしまの恵みイレブン」は本県の農業産出額に占める割合の大きい重点品目であることから、ご意見のとおり生産量、販売の動向や市場のニーズ等を確認しながら、風評対策を含めた販売促進やブランド力向上に向けた取組の推進、キュウリ等の施設化の推進等生産性の向上による生産量の拡大など、あらゆる手段を重点的に講じて生産振興を図ってまいります。 また、農業従事者の減少、高齢化が進行していることから、各産地における担い手に対し、技術・経営面からサポートしていくことはもとより、産地を支える新たな農業の担い手を確保・育成するため、就農者確保に向けた掘り起こしや技術研修等に取り組んでまいります。</p>
31	農業	満田委員	意見	資料5 生産振興	<p>生産性の向上については、飼料用米等における多収性品種の作付推進、園芸用施設や省力化機械の導入、飼養管理や衛生対策の徹底、さらに新技術の導入などを推進してまいります。 また、高付加価値化については、県オリジナル品種の導入やブランド化を推進し、関係機関・団体と連携しながら取り組んでまいります。</p> <p>量産品はいかに生産性を上げるか、質販品は付加価値の高いものを作っていくかが重要</p>

32	農業	横田委員	意見	資料5 生産振興	<p>これを作っておけば、福島の農家さんは安泰だよというのが見えない（きゅうりを作っていれば安泰だよと言えるような県になれば） 福島でこれを作っておけば農家さんたちに本当の夢を見させて上げられるようなことが必要</p>	<p>全国的に生産量が多く、本県が主産地となっているきゅうり、トマト、アスパラガス、ももなどは、収益性が高く各産地の地域経済に深く根ざしていることから、一層の産地拡大に向け取り組んで参ります。 なお、野菜については、きゅうり、トマト、アスパラガスの主要3品目について、令和2年度から新たに補助事業を構築し、集中かつ加速的な施設化を市町村とともに支援してまいります。</p>
33	農業	宗像委員	意見	資料5 畜産振興	<p>畜産では、日米貿易協定など、国際化が一段と進んでいる。 最先端技術を活用した種母牛の育成など、国際競争力に勝てるような畜産の方向性を示す必要</p>	<p>肉用牛については、最先端の遺伝的能力評価技術であるゲノミック評価技術の活用により、脂肪交雑に加えておいしさに優れた遺伝能力を有する種雄牛の造成、高能力雌牛群の整備を進めているところであります。これらの成果等を踏まえ、国際競争に勝てる魅力ある福島県産畜産物の生産を推進してまいります。</p>
34	農業	関委員	意見	資料5 GAP	<p>GAPに取り組むことでどう利益があるのか、高く売れるのか、農家は気にしている経営改善には、確かにいいことなのだが、メリットが感じられないとやめていく方も多いのではないかと また、これからの方向性として、高付加価値化ということで、競争力強化の中にも位置づけるのであれば、消費者教育にも力を入れる必要</p>	<p>GAPを導入した生産者に対しては、継続的なGAPの取組に向けた助言や各種研修への誘導を図るとともに、収益性向上に資する生産技術や新品種の導入、付加価値のある農産物の生産や販路開拓に向けた取組を支援するなど、生産者の意欲向上を図りながら、GAPの定着化を目指します。 また、ご指摘のとおりGAPに対する消費者・流通業者の理解は十分でないことから、県としては、GAPチャレンジフェアの開催やオリパイベントでPRするほか、GAP専用ポータルサイトを充実させ、消費者等の理解促進を図ってまいります。</p>
35	農業	横田委員	意見	資料5 GAP	<p>GAPについて、結果的に生産工程管理業務が大事という説明があったが、新しい計画の構成では、販売力強化の中にGAPが入っている。結局、販売につながっていくか見えるので、整合性が必要</p>	<p>GAPはより良い農業を実践するために、食品安全、環境保全、労働安全などに配慮した取組を行うとともに、生産履歴の記録や証拠書類等を整備し、改善活動に取り組むものです。 一方、販売面では、GAPに取り組む姿勢が消費者から信頼され、風評払拭につながるほか、HACCP導入事業者と連携して、生産から加工・出荷まで一貫した品質・衛生管理を実現する「信頼のフードチェーン」を構築し、信頼あるブランド展開を目指すこととしております。</p>

令和元年度第2回福島県森林審議会における委員からの主な意見と回答等

No.	審議会	委員氏名	分類	項目	意見等	説明、回答、方針など
1	森林	今野万里子 委員	意見	資料3-1 P13 森林資源の充実・確保	<p>公的主体が入ることで森林の機能が回復するのは当たり前で、それがなくても持続できる、又は、継続的な公的主体の投入が可能になる方法を作っていく必要があるのではないかと。 これを検討することを計画に盛り込む必要もあるのではないかと。</p>	<p>原発事故による放射性物質の影響により森林整備が停滞したため、森林所有者等が行う森林整備への支援に加え、公的機関が森林整備とその実施に必要な放射性物質対策を行うふくしま森林再生事業に取り組んでまいりました。 今後の方向性については、放射性物質の低減状況を踏まえ、施業の集約化や低コスト化及び木材の利用技術の開発等への取組を支援し、林業事業者等による森林整備が推進されるよう取り組んでまいります。</p>
2	森林	今野万里子 委員	意見	資料3-1 P13 林業の担い手の確保・育成	<p>他の委員の話にもありましたが、出口が安定しなければ研修だけ受けて流出してしまうと思います。辞めて行く人に対して、その要因を聞き取りして改善に繋げるなどが必要ではないでしょうか。</p>	<p>離職理由については、県内林業事業者へのアンケート調査（平成29年度実施）や他県の調査結果により、把握に努めております。その結果を参考に、林業担い手の確保・育成、定着に繋がる取組を実施してまいります。</p>
3	森林	今野万里子 委員	意見	資料3-1 P19 県民参加の森林づくり	<p>県民参加の森林づくりは、どの重点プロジェクトに位置づけられますか。 達成目標が参加者数になっていますが、現状は参加者を増やすことが目標になっているのではないのでしょうか。 他の委員のコメントにもありましたが、このイベントを何に使うのが、重要かと思えます。やり方によっては、長期的に担い手の育成に繋げることもできるかと思えます。目的によってやり方が変わりますので、ご検討ください。</p>	<p>県民参加の森林づくりについて、重点プロジェクトへの位置づけはありませんでした。 本施策は、策定当時、震災及び原子力災害によって森林から離れてしまった多くの県民に、再度森林づくりに接してもらい、その大切さと参加する意義を広めるために、体制づくりを含め行っている施策であったことから、指標は参加者数としておりました。 ただし、目標を大きく上回る参加者数となっていることから、施策の方向性や指標についてもご意見を参考に検討してまいります。</p>

4	森林	今野万里子 委員	意見	項目無し	<p>どのページの…というわけではないのですが「ふるさと」として、農林水産業をそれぞれ分けずに記載することの意味が、藤野さんからもありました。その件に付随して…ととらえていただけるとありがたいです。</p> <p>ふるさとは人の生活を前提として、成り立っている環境です。それが、人口減少や高齢化により、かつての広さを維持することができなくなってきています。そこで考えなくてはならないのが、公的資金を投入し続けて今の規模を維持管理するのか、規模を縮小して基本的には民のできる範囲で維持するための、補助を公的に行うのか、その選択の時に差し掛かっていると思います。</p> <p>これは、県土全体にも言えることで、県内の森林の活用や整備についても、優先順位をつける必要が出てくると思います。そうした場合に、省力化で効率的な管理・運営ができる箇所を積極的に活用し、その計画を作れるところに対して補助を手厚くするなど、補助の出し方に工夫をすることも必要ではないでしょうか。この辺は、実際の施策の話になってくるとは思います。ふるさと＝農村環境ととらえるならば、身の丈にあった農村計画を市町村が策定するお手伝いをしていただければ、と思います。</p> <p>身近な森林は積極的に活用し、奥山は、天然林に戻す。そうすることで、奥山との境界線もわかりやすくなり、鳥獣害にも一役買います。近場の森林を活用することで、搬出コストを抑えられます。農と林のどちらもメリットが発生するような少し、長期的な目線での「ふるさと再生計画」を推進していただければと思います。ご検討の程、よろしくお願いたします。</p>	<p>森林・林業については、平成31年4月から森林経営管理制度が始まり、林業に適した森林は市町村から林業経営者に管理を委託し、自然条件などが悪く林業に適さない森林は市町村が自ら手入れを進め、自然に近い森林に誘導するなど、新しい森林経営・管理の取組が始まったところです。</p> <p>この取組を国、県、市町村、林業経営者等の関係機関が連携し進めていくこと、また森林整備で発生する木材等の資源を活用することで、効率的な林業経営が期待されます。</p> <p>委員から提案のあった森林の維持管理の在り方や、省力化・効率化が図られるよう、新しい農林水産業振興計画では、これまでの森林整備や木材生産とともに、森林経営管理制度による施策を推進してまいります。</p>
5	森林	藤野正也会長	意見	資料3-1 資料3-2 資料4	<p>事務局においては、グラフの作り方等、新たな情報を反映して頂いて、バージョンアップして、次回以降の審議会の資料としても配布して頂きたい。</p>	<p>「本県農林水産業をめぐる情勢」など、実績値を更新して資料として配付いたします。</p>
6	森林	齋藤久美子委員	意見	資料5	<p>インバウンド需要への対応、都市交流の促進など、人と人との交流等いろいろな体験機会を増やすには、どうしても田舎の地域だと交通手段が問題になってしまっていて、交通手段がないために交流したくても出来ないという事態が起きてくると思いますので、具体的に考えて頂けると助かります。</p>	<p>農山漁村と都市との交流促進は、地域の活性化や農林水産業への興味や理解が深まるため、今後とも必要な取組と考えております。</p> <p>委員の御意見も踏まえ、他部局との連携も視野に入れ、施策の展開方向を検討してまいります。</p>

7	森林	山本美穂委員	意見	資料5	<p>情報発信を心掛けて頂いて、強気な計画をしてもいいのではないかと思います。</p>	<p>本県農林水産業は、農林水産物を県内のみならず県外にも安定的に供給する産地として大きな役割を担っており、本県の強みや取組状況を全国に情報を発信し、共有していくことは大変大切なことと考えております。</p> <p>今後もその役割を十分に果たしていくという視点も踏まえて、新しい計画を策定してまいります。</p>
8	森林	各委員	意見	資料5	<p>一括で一次産業がいろいろな視点から展開していくという書き方がいいのでは。</p> <p>ただし、林業だけが小さなページにならないように。</p> <p>鳥獣害対策も一つにまとめて取組んだ方が良いのではないか。</p> <p>農林水が一緒になるメリットが無いのであれば、農林水を別々に書いておけば良いという結論になってしまう。その辺は事務局で頑張って頂きたい。</p>	<p>多様化する地域課題に対応するため、施策を総合的に推進しているところです。</p> <p>課題に対する農林水産業各分野の施策をまとめて表記するなど、読む人にとって分かりやすい計画となるよう、工夫してまいります。</p>

## 令和元年度福島県水産業振興審議会における委員からの主な意見と回答等

No.	審議会	委員氏名	分類	項目	意見等	説明、回答、方針など
1	水産	立谷寛治委員 野崎哲委員	意見	資料4-1 担い手の育成・確保	これまで以上に、担い手の育成に係る取組を実施してほしい。	御意見のとおり担い手の育成は非常に重要と考えており、引き続き青壮年部や女性部活動の支援や、若手漁業者への研修会、漁業士認定の実施などを取り組んでまいります。
2	水産	江川章委員	意見	資料5 水産業をめぐる情勢	地球温暖化の影響が不明だが、近年高水温が続いており、獲れる魚種が変化しているため、今後数量を上げていくためにも、県からの指導をお願いしたい。	資源量や海洋観測等の調査を引き続き試験研究機関でしっかりと取り組むとともに、最新の資源状況から最適な利用方法をご提案し、より良い漁業経営に寄与できるように取り組んでまいります。
3	水産	野崎哲委員	意見	資料5 水産業をめぐる情勢	海洋プラスチック等の海洋汚染への取組に関する項目を1つ挙げてほしい。	環境と共生する農林水産業を目指し、環境に配慮した持続可能な生産を推進していくための取組として漁業系プラスチックごみの適切な処理や海浜清掃などを推進し、新たな計画に反映します。
4	水産	江川章委員	意見	資料5 水産業をめぐる情勢	災害ゴミが海に流れて操業の邪魔になっている。昔の様に年に1～2回の清掃に取り組みたいので、県としても検討をお願いしたい。	自然災害に起因するゴミの情報について漁業者の方からよく聞き取り、漁場環境の変化により生産力が低下した漁場の機能回復に関する取組について支援してまいります。
5	水産	佐川泉委員	意見	資料5 水産業をめぐる情勢	台風19号の災害復旧工事がこれから本格化する中で、内水面漁協として、如何に土木工事との共存していくか考えないといけない。県からのご支援・ご協力をお願いしたい。	内水面漁協と災害復旧工事に関する情報を共有し、他部局とも漁場の利用・調整について協議してまいります。
6	水産	野崎哲委員	意見	資料6 ふくしま型漁業	試験操業では漁場を限定して実施しており、資源に圧力を加えてしまう心配があるがどうか。	震災前と同じ操業形態に戻していかないと、特定の区域だけ漁獲圧が高くなってしまふことはあり得るため、今後、試験研究機関において資源への影響に関する分析等についても検討してまいります。
7	水産	野崎哲委員	意見	資料7 新しい農林水産業振興計画の策定	漁業法が成立し、これから国が政省令を定めていくため、今回の計画策定ではその点にも考慮し、漁業者に不利益がないように情報をつないでいただきたい。	漁業法改正については、国の動向をしっかりと捉え、随時情報共有しながら、新しい計画に反映するよう進めてまいります。
8	水産	鈴木延枝委員 濱田奈保子委員	意見	参考資料2 ふくしまイレブン	イメージが重要であるため、出来るだけ立派な写真を使い、調理法を紹介するなど工夫しながら、他の農林水産物と一緒にPRしていくことが大切である。	ご指摘のとおり、販売促進につながるような写真や調理法などを紹介する等、PR方法の改良に取り組んでまいります。